

【令和6年度】とうきょう　すくわくプログラム活動報告書						
			施設番号	66-0641		
			施設名	かすみ保育園		
			施設所在地	東京都青梅市東青梅 6 丁目 1 - 1 2		
			法人名	社会福祉法人青梅みどり福祉会		
1. 活動のテーマ						
＜テーマ＞						
「食育」 日頃から身近で大事な「食」に注目し、子どもたちが苦手意識を持っている野菜を主役にした「食育」をテーマとして設定した。						
＜テーマの設定理由＞						
五感が発達している未就学の時期に「食」に関する知識をつけ、農業が持つ教育的な価値に目を向けて、様々な体験を得てもらいたい。 土や野菜に触れた時の感覚や香り、生き物、植物など、例えば「どうしてきゅうりを切ったら水が出て冷たいのか？」など、食べているだけでは気付けない野菜の不思議、自然のパワーを問いとして設定することで、「こんなの初めて見た」と「もっと知りたい（触りたい）」という子ども達の知的好奇心を育みたいと考えたため。 「たべる」だけでなく「つくる」のところまで繋げてあげたい。						
2. 活動スケジュール						
令和6年12月：食育授業 令和7年3月：お野菜販売会（子どもの八百屋体験）						
3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定						
食育授業： ・専門の外部講師を呼んで園内で開催できるように野菜の購入、備品の購入 使用食材　金時にんじん、小松菜、はやとうり お野菜販売会： ・八百屋さんの開店準備として値札台紙の作成印刷、見本値札の作成、野菜を並べるための木製棚、野菜セットを並べるためのフックハンガー、八百屋さん用の木製机と椅子、八百屋さん用のテント						
4. 探究活動の実践						
＜活動の内容＞						

本物の野菜を切る、ちぎる、折るなどして、五感を通じてその音や食感、外側の皮と中の部分の違いなどを知る。楽しく学べるようにクイズの要素を取り入れて実践した。外部講師が実施することで、子ども達にもいつもとは違う新鮮な情報が入っていくようで、いつもよりも聞く姿勢が出来ている子どももいた。なかなか調理前にじっくり野菜に触る時間が取れていることはなく、子ども向けに野菜のパワーを説明してくれることで、子ども達も最後まで飽きずに五感を活用して参加できていた。

本物の野菜とお金を使って、八百屋体験の役割を全うする達成感、野菜への愛着などを社会体験を通じて行った。また、袋詰めでは固くて重い野菜を下に入れたり、崩れないように丁寧に入れる知恵など、未就学の段階で人やモノに対する優しさや気遣いという社会体験についても学ぶきっかけとなった。

食育活動を繰り返し行うことで、子ども達の感情が「野菜も生きている」と捉えて、野菜の成長や大切さを身をもって体験している様子が伝わった。

例えば金時人参を出すときと長くて赤い様子を驚いており、中がどうなっているのか？という疑問が次々と浮かび、子ども達の純粋な好奇心やワクワクしてる様子が感じられた。

また、小松菜をお皿のようにして、人参やはやとうりを切った部分を並べてみたり、日常では体験できないことを子ども主体で楽しんでもらうことで、手触りや匂いも個々で楽しめていた。

保育者も一緒になって楽しんで参加することで、その時だけで終わるのではなく、今後の保育活動において保育園が伝えられるメッセージを考えるきっかけにもなった。

子ども達は野菜と触れ合うことで、「こことここで色が違う」や「外の皮はツルツルだけど、中はザラザラしてる」や「ぶ厚くなっている」とかの細かい変化に気づいて声を挙げている様子が見られた。



＜振り返りによって得た先生の気づき＞

また、【シイタケ栽培キット】は水につける所から、子ども達も観察できるようにして、事務所で栽培したが、毎朝、観察しに来る年少児もいた。
年長児中心に霧吹きやシイタケの収穫も経験でき、シイタケへの興味関心も深まった。栽培もキットであれば素人の私たちでも十分できたので、また挑戦しても良いかと思った。

お野菜販売会では、年長児が店員役となり参加したが、子ども同士準備をする中で、役割分担やどんな呼びかけをするか・・・等色々、意見を話したり決め合うなどの姿が見ることができて、楽しく参加できていた。
保護者や地域の方々も協力頂き楽しい会となったので良かった。